



Weekly Report

山梨中央ロータリークラブ

Rotary International District 2620
Yamanashi Chuo Rotary Club 2016-2017

会 長	石原 満彦	副会長	田中 雅貴
幹 事	竹野 満	副幹事	田中 雅承
会 計	小池 章治	会 報	田中 雅承

事務所 〒409-3812
山梨県中央市乙黒 158-2 (山梨ビジネスパーク(株) カルク内)
TEL 055-273-5344 URL <http://yamachuo-rc.net/>
FAX 055-273-8010 E-mail rotary@yamachuo-rc.net

2016~2017 RI 会長 ジョンF.ジャーム
第2620地区 ガバナー 生子 哲男
【例会日】毎週金曜日 12:30~13:30
【例会場】(株)カルク (055-273-5344)

2016年 12月 23日 第1749回例会

本日のプログラム

子どもとあゆむ地域絵画作品展 表彰式例会

会長挨拶

「第28回子どもとあゆむ

地域絵画作品展」

会長 石原 満彦

皆さんこんにちは。クリスマスイルミネーションが冬の街を飾っています。今年も毎年恒例でもあり、当クラブの一大事業でもあります「第28回子供とあゆむ地域絵画作品展」が12月17日(土)より開催され、12月23日(金・祝)には表彰式が執り行われます。

師走で誠に忙しい時期ですが、表彰式には多くの父兄や子どもたちが来場されると思います。皆さんのお力を借りて滞りなく執り行いたいと考えておりますので、小池青少年奉仕委員長はじめ会員皆さんのご協力の程、よろしくお願い致します。

この絵画展は、子どもたちが自分たちの住む町に関心を持ち、その魅力を再発見することで「ふるさと」を思う気持ちを育ててくれることを願ったものであり、この事業が始まってからもう早いもので28年という年月が経ち、今では当クラブの歴史ある事業のひとつに育ちました。

今回も応募者数1,425名の応募があり、どれも素晴らしい作品ばかりで審査された皆さんは大変な苦勞だったと思います。この子どもたちの作品は、身近な物や伝えたいことをみずみずしい感性や純粋な心でとらえ自分の想いを込めて表現されたもので、子どもたちの作品を見る人の心に大きな感動を与える作品ばかりであります。

子どもたちがこれらの賞を受賞された喜びを今後の作品作りに活かし、さまざまな夢に向かってさらに意欲的に取り組んでくれることを願うと同時に、この事業を30年、40年と続けられるよう会員増強にも力を入れていきたいと思っております。ですので、こちらの方も会員の皆さんにはご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

それでは皆さん、当日の「第28回子供とあゆむ地域絵画作品展」の表彰式ではくれぐれもよろしくお願い致します。以上で会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告

幹事 竹野 満

1. 本日は、「子供とあゆむ地域絵画作品展」の展示作業をご苦勞様でした。「会場当番表」にしたがって、当番にご協力をお願い致します。

2. 次回、12月23日(金・祝)は「表彰式例会」を、午後12時30分より昼食をはさんで行いますので、全員の参加をお願い致します。

また、例年通り、12月30日(金)は「年末特別休会」です。

そして、平成29年1月6日(金)の例会は「年始特別休会」です。

「新年例会」は1月13日(金)に通常時間で行いますので、お間違えの無い様、宜しくお願い致します。

3. 米山記念奨学会事務所より、「ハイライトよねやまNo.201」が届いておりますので、回覧致しました。

また、「申告用領収書」を来年1月末までにクラブへ送付するとの事です。

4. 例会変更のお知らせ

☆甲府南ロータリークラブ☆

1月3日(火)は「正月休会」

1月10日(火)の例会は「新年祈願例会」の為 会場の変更

点 鐘：午後12時30分

会 場：「稲積神社」

☆甲府北ロータリークラブ☆

1月4日(水)の例会は「イベント例会」の為 日時・会場の変更

日 程：1月7日(土)

点 鐘：午後12時30分

会 場：甲府駅北口「小作」

「お正月を遊ぼう」に参加の為
1月11日(水)の例会は「新年祈願例会」の為 会場の変更

点 鐘：午後12時30分

会 場：「護国神社」

前回の例会記録

第1748回 出席報告

会員数	免除	出席者	欠席者	出席率	メイクアップ	前回の修正出席率
11名	0名	9名	2名	80%	4名	100%

届出欠席者 鮎川 一明君 田中 雅貴君

届出失念者 なし

出席免除者 なし

メイクアップ 鮎川 一明君 田中 雅貴君

林 美喜枝君 遠藤 一郎君

ビジター なし

備考 「絵画展展示例会」

ニコニコ BOX

• なし

★ 職業奉仕卓話 ★

「恩がえし(5)」

比嘉 昇先生

「私自身の生きてきた道を話そう。君と同じ年の時、家出したんだ。家が貧乏で自分だけが高校へ行くのは親にすまない。遠くへ行って働こう。でも母親に連れ戻されてまた高校へ戻ってどうにか卒業した。それから十年間働いた。二十八歳から大学で学び先生になったんだ」「先生、えらい出世やんか」そんなやりとりをした後、「そのことを式辞で話すよ」「かまへんで」。

卒業式当日、全員と握手をして証書を手渡したが、一人、翼だけは壇上で両手で私の手を握って離さなかった。前年の大荒れの卒業式とは全く違って式辞を伝え終わると、子どもたちから拍手が湧きおこり、やがてそれは式場全体を包む感動的な響きとなった。

しかし退職後も、当時二桁の数もいた不登校の子どもたちに何もできなかった悔恨。沈殿していた忸怩(じくじ)たるものが「子ども館」設立への地下水脈として流れていたのだ。私を今日まで生かしてくれた多くの人たちに恩返しはできない。不登校であれヤンチャであれ、人間らしく生きていきたいとへたくソな意思表示をしている子どもたちと真っ正面から命の限り向き合うこと。それが私流の「輪廻転生」だと、しみじみ想う日々である。(終)

次回のプログラム 1月13日(金)

新年祝賀例会 会長祝賀挨拶